

中学生のメディア利用と親子関係

橋元良明 (東京大学大学院 情報学環教授)

調査の概要

本稿では中学生のメディア利用と親子関係について実証的調査の結果を報告する。

もとなった調査は、2007年1月に東京23区在住の満14才(中学2年生)の男女およびその母親に対して実施された。サンプリングは住民基本台帳に基づく無作為抽出法、調査員による個別訪問留置回収法によるもので、有効回収票は311ペアであった(橋元他,2007)。

調査の主眼は中学生の携帯電話利用と親子関係の分析であったが、同じ調査の中で携帯電話以外のメディア利用についても質問している。「テレビ」「テレビゲーム」「パソコンによるインターネット」「携帯メール」の各利用と親(とくに母親)と子の関係について分析結果の一部を報告する。

なお、メディア利用については、自己報告による1日の平均利用時間(分数)を主な分析データとしているが、携帯メールについては、相手別に詳細に質問した頻度データを、週あたりの利用頻度に変換し、さらにそれを合算した数値を用いた。携帯メール頻度と他の項目との関連に関しては、分析対象を携帯電話利用者(調査対象者全体の74.9%)に限定して分析した。また、本稿では、基本的に相関分析等の統計的検定で、危険率5%未満で有意な関連が出た結果だけに限定して記述している。

親子のメディア利用時間の相関

——母子のテレビ視聴時間は強い相関

調査では中学生に対し、「テレビ」「テレビゲーム」「自宅PCネット」の各利用時間(自己報告による平日平均分数)、「携帯メール」の利用頻度(週あたり通数に変換)、「母親との会話時間」「父親との会話時間」(中学生の自己報告)を質問している。また、母親に対しても「テレビ」「自宅PCネット」「携帯メール(通数)」

を質問し、親子の回答を相関分析した結果を表1に示した。

表に示されるとおり、子どものテレビ視聴時間は、母親のテレビ視聴時間との間でかなり強い有意な相関が見られた($p<.001$)。家に複数のテレビがある家庭が増えたとはいえ、リビングに液晶大画面テレビが置かれ、そこで共視聴する時間が長い家庭が多いことが結果に反映していると推察される。と同時に、とくに母親のテレビ視聴習慣が子どもに強く影響することの表れであろう。

自宅PCネット、携帯メールの利用時間・頻度に関しては、母子で有意な相関は見られなかった。

「母親がテレビをよく見るほど、子どものテレビ視聴時間が長い」ということは十分予想されたことであるが、このほか、中学生のテレビ視聴時間が、母親との会話時間、父親との会話時間と有意な正の相関を示した。このことはおそらく、居間等でテレビを視聴する際に、家族で会話する機会が多いことの反映であろう。なお、別の分析では、テレビやPCネットの利用時間が長い中学生ほど「家族と一緒にいる時に携帯メールを受発信する」という結果も出ている。「家族と一緒にテレビを見つづ、時々は会話も交わすが、ケータイは手から離さず、頻繁に友人とメール等のやりとりをしている」という現在の中学生の一般的風景が浮かんでくる。

テレビゲーム利用に関しては、「テレビゲーム利用時間の長い子ほど、母親との会話時間が短い」という結果を予想したが、分析の結果ではテレビゲーム利用時間と母親との会話時間はほとんど無相関であった。中学生において大半の子はまだ「自室に引きこもってゲームびたり」という状況にはなさそうである。

なお、メディア利用との関連ではないが、「母親のテレビ視聴時間」と子どもの社会的スキルとは有意な負の相関関係が見られた。すなわち、「知らない人でもすぐに会話が始められる」「気まずいことがあった相手と上手に和解できる」等14項目で測定された

■表1：親子のメディア利用時間等の相関

		中学生				
		テレビ	テレビゲーム	自宅PCネット	携帯メール	
		132.4分	0.334***	0.111	0.056	-0.076
母親	テレビ	132.4分	0.334***	0.111	0.056	-0.076
	自宅PCネット	25.8分	-0.047	-0.036	0.090	0.020
	携帯メール	19.8通/週	0.133	-0.061	0.164*	0.068
母親との会話時間*		109.4分	0.333***	0.003	-0.021	-0.006
父親との会話時間		45.7分	0.157**	0.085	0.038	0.061

「母親との会話時間」「父親との会話時間」は中学生の回答による。その他は、中学生、母親それぞれの自己報告による。母数は「携帯メール」がらみに関しては、携帯電話利用者で中学生は198、母親は241。その他は調査対象者全体の311。単位のついた数値はそれぞれの平均値。単位抜きの数値は相関係数。* $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$ 。以下、アスタリスクの意味は本稿内で共通。

「社会的スキル」が低い中学生の母親ほど、テレビ視聴時間が長かった。

対母親への評価とメディア利用

——テレビゲーム、自宅PCネットの利用頻度が高い子ほど母親には否定的な評価

調査では「母親の生き方はつまらない」「あなたに干渉しすぎる」「あなたともの考え方が似ている」等、9項目にわたって中学生が母親をどのように評価しているかを尋ねた。

その結果、テレビ、携帯メールと有意な関連を示すものはなかったが、テレビゲームの利用頻度が高いほど「母親の生き方はつまらない (0.124*：数値は相関係数。有意水準の表記は表1の注に準ずる)」「あなたに干渉しすぎる (0.151**)」と評価し、また自宅PCネットの利用頻度が高いほど「本当のあなたを知らない (0.183**)」と評価し、「相談しやすすくない (0.122*)」「あなたと考え方が似ていない (0.123*)」「困った時に助けてくれない (0.124*)」と評価した。いずれもネガティブな評価であり、テレビゲーム、自宅PCネットの利用が「母親との良好でない関係」に関連していることが推測される。

表1で、中学生の「自宅PCネット」が、有意な水準ではないが「母親との会話時間」と負の相関を示しており、自宅PCネットの利用は、必ずしも母親とのコミュニケーションを促進する方向に働いていないことが示されている。もちろん、「PCネットを使うから母親とのコミュニケーションが少ない」のか、「もともと母親とのコミュニケーションが不十分な家庭の子において、PCネットを多用する」のか、因果の方向は調査データだけでは判断できないが、PCネットの利用頻度が高い中学生ほど母親への評価が概してネガティブなことを考えれば、後者の方向性の可能性が高いと推測される。

両親との関係の満足度とメディア利用

——自宅PCネットの利用頻度の高い子ほど両親との関係に不満足

中学生に対する調査票では父親、母親それぞれとの今の関係についてのどの程度満足しているかも質問した。その結果、「テレビ」「自宅PCネット」の利用頻度が高いほど父親への不満が強く（それぞれ0.159**、0.171**）、「テレビゲーム」「自宅PCネット」の利用頻度が高いほど母親への不満が強い（それぞれ0.119*、0.174**）ことが示された。

前節の結果とも併せて考えれば、「自宅PCネット」は、親との関係で良好にない中学生が高頻度で利用し、そのことがさらに親（とくに母親）との関係を悪化させているという悪循環を生んでいることが推察できる。「自宅PCネット」の利用内容はこの調査では質問していないが、橋元が関わった他の調査結果によれば、中学生が多くの時間を消費しているPCインターネット・サービスの一つは「動画投稿サイト（YouTubeなど）の閲覧」である。

なお、今回の調査では「携帯メール」の利用頻度は母親への評価、親との関係に関する満足度とは有意な関連は見られなかった。

母親の価値観、 「子育て」観と子のメディア利用

——ゲーム高頻度利用中学生の母親は子育てに自信がない

今回の母親調査票では、子どもの教育方針と関連すると予測されたいくつかの「価値観」「子育て観」を質問した。

以下、危険率5%未満の水準で有意な関連のあった項目を表にして列挙する。

まず「価値観」については、規則遵守意識が低い母

■表2：母親の価値観、子育て観と子どものメディア利用

母親の価値観	方向(母親の考え)	関連するメディア(中学生)	相関係数
学校の規則は守らなければならない	そう思わないほど	テレビ頻度高	0.130*
いい大学に進学することは大切だ	そう思わないほど	テレビ、ゲーム頻度高	0.118* 0.171**
人よりも目立ちたい	そう思うほど	PCネット頻度高	0.155**
最近子どもの事件が増加している	そう思うほど	PCネット頻度高	0.142*
子どもはやりたい道を自分で切り開く力をもっていると思う	あてはまらないほど	テレビ、ゲーム頻度高	0.132* 0.192***
私は子どもの育て方を間違ったかもしれないと思う	あてはまるほど	ゲーム頻度高	0.241***
子どもは、子ども自身にとって大事なことを自分で決定できると思う	あてはまらないほど	ゲーム頻度高	0.194***
子どもに問題があるのは私のせいだと思う	あてはまるほど	ゲーム頻度高	0.124*
子どもに必要な情報は、常に私が集めてきた	あてはまらないほど	テレビ頻度高	0.124*
子どもは仮に悩みが生じてても、自分自身で解決していこうと思う	あてはまらないほど	ゲーム頻度高	0.120*
子育てのやり方で子どもにすまないと思う面がある	あてはまるほど	ゲーム頻度高	0.196***
子どものしつけは、主に私がおこなってきた	あてはまるほど	PCネット頻度高	0.153**
子どもの教育のためなら他の出費を減らしてもかまわない	あてはまらないほど	テレビ頻度高	0.163**

親の子ほどテレビをよく見ていて、また大学進学に熱心でない母親の子ほどテレビ、テレビゲームをよく利用している。「人より目立ちたい」という母親の子の自宅PC ネット利用頻度が高い理由は不明であるが、あまりポジティブな事態を反映してはいないと思われる。なお、携帯メールはいずれの項目とも有意な相関は見られなかった。

「子育て」観に関しては、テレビゲームと有意な相関を示した項目が非常に多かった。表から再度まとめてみると、テレビゲームの利用頻度が多い子の母親は、子どもの自立能力に関して、あまり自信がなく（「子どもはやりたい道を自分で切り開く力をもっている」と思わず、「こどもは自分で大事なことを決定」できないと思い、「悩みを自分で解決できない」とも思っている）、自分の子育てがまちがっているかもしれないと迷い、子どもの問題は自分のせいだと思い、子育てで子どもにすまないと思う、というように子育て自体について自信を失っている様子がうかがえる。もともと子育てに自信のない母親の子がゲームに走るのか、あるいは子どもがゲームにはまっている姿をみて子育てに自信を失うのか、その方向性は明らかではないが、いずれにせよ子どものゲーム利用については、現状では母親はかなり悩んでいる姿が浮かび上がってくる。

中学生のメディア利用に関する その他の特記事項

——メディア利用頻度と不良的行動とは
おおむね正の相関

調査では親との関係以外にも多くの項目を質問している。本稿の最後にその一部を報告する。

友人数に関して、自己評価で人と比べた場合の友人の多寡を質問した結果では、ゲームの利用時間が長い中学生ほど友人数が少なく (-0.142*)、逆に携帯メール頻度と友人数は正の相関を示した (0.207**)。これは、友人の多い子ほど携帯メール利用が活発で、友人の少ない子はゲームにのめり込む傾向を反映したものと考えられるが、逆方向の影響も考えられ（たとえば「自宅でゲームばかりしているから友人ができない」等）、友人数に関して、ゲームと携帯メールは相反する方向

に作用しているようだ。

2節で既に少し触れた社会的スキルとの関係では、中学生のテレビ、テレビゲームの利用頻度と社会的スキルは負の関係にある (-0.167**、-0.134*)。逆に、社会的スキルの一部の「コミュニケーションスキル」の高い中学生ほど携帯メールの利用頻度が高い (0.142*)。友人数とも関連するが、テレビゲームは中学生の非社交性と、携帯メールは社交性と関連している。

不良的行動との関係については、表3に示されるとおり、携帯メールと有意な関連をもつ項目が多い。「コンビニで友だちとたむろする」「学校に遅刻する」「授業中いねむりをする」「ゴミを道に捨てる」「親に無断で遊びに出かける」「学校や塾の帰りに寄り道をして遊ぶ」等、調査で質問したほとんど項目と有意な相関が出た。方向性はいずれも携帯メール頻度が多いほど不良的行動が多いという結果である。

ただし、この結果は必ずしも携帯メールというメディアが、中学生の行動に悪影響を及ぼしていることを意味しない。既に見てきたように、携帯メールの頻度は、親との関係や母親への評価においてネガティブな関連をもっておらず、また友人数と正の相関をもつ傾向にある。そのことから考えれば、携帯メール利用が盛んな中学生ほど、交友関係が豊かで、家の外での活動も積極的なことの一つの反映とも考えられる。

なお、不良的行動に関しては、自宅PC ネットの利用頻度とも「コンビニで友だちとたむろする」「学校に遅刻する」「授業中いねむりをする」「学校や塾の帰りに寄り道をして遊ぶ」の各項目で有意な関連があった。その他、テレビの時間と有意な相関があったのは「学校に遅刻する」「ゴミを道に捨てる」、テレビゲームとの有意な相関は「親に無断で遊びに出かける」の各項目である。

メディア利用と不良的行動の関連に関しては、有意な関連はすべて「メディア利用頻度が高い子ほど不良的行動が多い」という方向性である。今回の調査結果だけを見る限り、中学生のメディア利用は行儀のいいおぼっちゃまの育成とは、あまり相容れないようである。

〈文献〉

橋元良明他 (2007) 『ユビキタス社会のケータイ利用と親子関係』21世紀COEプログラム「次世代ユビキタス情報社会基盤の形成」報告書

■表3：中学生のメディア利用と不良的行動

	テレビ	テレビゲーム	自宅PC ネット	携帯メール
夜12時を過ぎても家に帰らない	-0.060	-0.032	0.021	0.111
コンビニで友人とたむろする	0.086	0.023	0.166**	0.179*
学校に遅刻する	0.131*	0.078	0.205***	0.174*
授業中に居眠りをする	0.097	-0.067	0.136*	0.239***
ゴミを道に捨てる	0.140*	0.009	0.083	0.234***
親に無断で遊びに出かける	0.096	0.166**	0.004	0.157*
学校や塾の帰りに寄り道をして遊ぶ	0.058	0.058	0.178**	0.144*

調査票では不良的行動に関し「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」の4択回答。分析ではそれらを4から1へ数値化して処理した。数値は相関係数。
*:p<.05 **:p<.01 ***:p<.001。